

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
部門番号一覧は、ホームページ上の[部門番号一覧](#)からご確認ください。

関東学院大学

望月ゼミ

望月 A パート

1

部門番号

部門名

日本経済学

テーマ 2020 東京オリンピック

サブテーマ

趣意文

2020 年に開催される東京オリンピックをいろんな視点から注目し、日本に東京オリンピックがもたらす経済効果について討論したい。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。

部門番号一覧は、ホームページ上の部門番号一覧からご確認ください。

神奈川 大学 玉井 義浩 ゼミ B パート

1

部門番号

部門名

日本経済論

テーマ 日本^の社会経済を持続可能なものとするために必要なこと

サブテーマ 若者の地方圏からの流出問題と少子高齢化・シェアエコノミー

趣意文

地方圏から都市部への若年人口の流出は、高度成長期ほどの勢いではないものの、未だに進行している。特に近年は少子高齢化を反映し、地方圏の過疎問題、限界集落の問題が深刻となっている。一方、日本経済全体に目を転じると、設備投資需要が横ばいで、正規雇用と非正規雇用の格差も拡大している。

つまり、全体として日本経済の持続可能性に疑問符がついている。我々の研究では、まず上記の問題の実態を把握した上で、日本経済を持続可能なものとするために必要な施策を検討する。たとえば人口減少社会を前提として地方圏のインフラ整備をどのように進めるかを、コンパクトシティーも視野に入れて検討する。また、地方に若者を呼び戻すため、どのような形で地方圏に雇用を創出するかも検討する。

地方圏であるか都市圏であるかを問わず、経済の持続可能性の観点から注目されるのはメルカリやライドシェアなどの、シェアエコノミーである。資源節約の観点からも、また、新たな需要や雇用の創出の観点からも、経済の持続可能性を目指す上で、シェアエコノミーは有効なヒントとなる。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。

部門番号一覧は、ホームページ上の[部門番号一覧](#)からご確認ください。

中央大学 佐藤拓也ゼミ

チーム名 佐藤拓也 A 班 代表者 山本祥一

1

部門番号

部門名 日本経済論

テーマ

AI

サブテーマ

AI 普及による経済への影響

趣意文

近年、あらゆる分野でAIの導入が進み、私たちの生活にも深くかかわるようになってきている。これにより生活が便利になる一方で、AIの導入や機械化により私たちの雇用が奪われてしまうのではないかという懸念もある。過去の産業革命では、それが起こるたびに失業は発生したが、新たな職の誕生によりそれを解決してきた。これに対して、今度の産業革命ではどうなっていくのかを、テーマとして検討したい。また、日本国内の問題だけでなく、AIなどの技術が発展する今後の世界経済のなかにあって、日本はどのような立場でグローバル化に向き合っていくべきかという問題意識も背景にして、テーマを設定した。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
部門番号一覧は、ホームページ上の[部門番号一覧](#)からご確認ください。

明治 大学 藤江昌嗣 ゼミ 藤江昌嗣ゼミ C パート

部門番号

1

部門名 日本経済論

テーマ 日本のビジネスモデルの遅れ

サブテーマ 起業率を高めるにはどうすればよいのか

趣意文

近年、世界的にビジネスモデルとして水平分業型が主流となっている一方で、日本ではいまだ垂直統合のシステムが多く見受けられる。その原因として日本企業の経営者に多い組織人タイプの経営者ではなく、フロンティアを開拓していく強いリーダーシップを持つ人材が少ないことが挙げられる。また、古い企業が前線から退き新しい企業が台頭するような企業の新陳代謝もあまり見られていない。

実際に世界の起業率を見ても日本はかなり低いところに位置している。日本の従来からの雇用慣行や教育制度などが足枷となっていると言われていたが、その解消とともにどのような改善策があるか考えたい。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。

部門番号一覧は、ホームページ上の[部門番号一覧](#)からご確認ください。

日本 大学 河越正明 ゼミ 河越ゼミパート

1

部門番号

部門名

日本経済論

テーマ

地域経済論

サブテーマ

地方創生を目指して

趣意文

近年、地方の財政状況が悪化の一途をたどっている。人口減少の影響により、税収や雇用者数の減少が現状に起きている。北海道夕張市の財政破綻が記憶に新しいが、このような現象はどの地域に起きてもおかしくはない。そこで我々は、地域活性化には産業、環境、福祉、観光、人口、雇用など様々な経済学的アプローチが必要ではないかと考えている。例えば、観光であれば「ゴールデンルート」からの脱却が課題であり、雇用であれば「企業誘致」の施策を検討する必要がある。また、私たちは他大学のゼミ生の意見を踏まえ、討論し、共に地方創生の糸口を掴みたいと考えている。